## 到達目標達成度評価表　記入要領

評価表－1

　到達目標達成度評価表とは、協会資格教育課程の一連の授業を受講して、この資格の到達目標を総合的に評価するための評価表です。これによって、個々の到達目標をどれだけ達成できたのかを確認します。その後、総合的な達成度を自己評価して、達成度をさらに高めるためにどのような課題が残されているのか、これからの学修の目標を明確にします。

|  |
| --- |
| 到達目標達成度評価表の記入方法 |
| １．学生による学修成果の総合評価（自己評価）（１）学修成果の総合評価　学生は、到達目標評価表に基づき目指すべき開発する4つの能力（領域）の評価を基準にしたがって学修成果をL5～L1で自己評価する。　それぞれの評価の根拠について、ポートフォリオなどの学修プロセスを示す資料、学修成果を示す課題や成果物などをもとに記述する。学生は、各能力の評価結果を25点満点に換算して点数を記入する。到達目標の欄に各能力のレベルを自己評価（L5～L1）し、○を付すとともに点数を記入する。各能力の評価結果の合計点を「学修成果の総合評価」の欄の「学生の自己評価」に記入する。　点数をもとに次の表に対応した評価結果をL5～L1の該当評価結果に○を記入する。評価結果のレベルと評価点の関係

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| L5（レベル5） | L4（レベル4） | L3（レベル3） | L2（レベル2） | L1（レベル1） |
| 100～90点 | 89～80点 | 79～70点 | 69～60点 | 59点以下 |

（２）今後の能力開発　学生は、学修成果をもとに今後の自らの能力開発について、どのような働き方をしたいか、そのためにどのような能力が必要かを記述する。２．教員による学修成果の総合評価　教員は学生の自己評価や授業における学生の学修成果をもとに、総合的に学生の学修成果を評価して「教員の評価」の欄にL5～L1を記入する。一覧表には、L2以上を「合」とし、L1を「否」として「合/否」の欄に記入する。「否」の場合、資格認定することはできない。　なお、教員の評価が「L1」の場合、補習授業を実施することができ、その結果合格になった者は「補修により合」の欄に合否を記入する。なお、補習授業に関して補習授業記録に必要事項を記入し、大学が保管する。 |

到達目標達成度評価表

評価表－2

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 氏名 |  | 大学名短大名 |  | 学部学科 |  |
| 学修成果の総合評価 | 学生の自己評価／100点　L5・L4・L3・L2・L1 | 教員の評価L5・L4・L3・L2・L1 |
| １－１　働く基礎能力（25%）　 | L5・L4・L3・L2・L1 | ／25点 |
| 評価の根拠（具体的な事実をもとに省察して記述する） |  |  |
| １－２　自分を知る力（25%） | L5・L4・L3・L2・L1 | ／25点 |
| 評価の根拠（具体的な事実をもとに省察して記述する） |  |  |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| １－３　社会を知る力（25%） | L5・L4・L3・L2・L1 | ／25点 |
| 評価の根拠（具体的な事実をもとに省察して記述する） |  |  |
| ２－１　就業体験からキャリアを考える力（25%） | L5・L4・L3・L2・L1 | ／25点 |
| 評価の根拠（具体的な事実をもとに省察して記述する） |  |  |

評価表－3

評価表－4

|  |
| --- |
| 今後の能力開発　（どのような働き方をしたいか・そのためにどのような能力が必要か） |
|  |